

「YPU ジャント in 山口」中間報告

8月と10月で「YPU ジャント in 山口」を開催いたしました。「YPU ジャント in 山口」の開催の目的は、山口県立大学生と交流する場として、山口市と韓国昌原市が姉妹都市であることをより多くの方にも知ってもらうこと、そして、山口県立大学がどのような学びをしているかを地域の方々に知ってもらうことです。（※「ジャント」（※韓国語で「市場」の意味。）

以下では8月と10月の様子を詳しくご紹介します。



第1回目は8月27日（土）、28日（日）に第1回「YPU ジャント in 山口」を山口中央商店街にて実施しました。あいにくの悪天候でしたが、1日目は約90名、2日目は約110名の地域の方がイベントに参加して下さいました。「YPU ジャント in 山口」では紹介展示ブース・伝統体験ブース・食文化体験ブースの3つのブースを設け、来場者にアンケート調査を行いました。

紹介展示ブースでは、パネルを使って山口市と姉妹都市関係を結ぶ昌原市の紹介（名産物など）、私たちの留学体験の紹介、山口県立大学の紹介などを行いました。今回の企画の目的である地域の方に”私たちが大学で学んだことを知ってもらう”ため、この紹介展示ブースは今回のイベントの中で最も重要なブースとしていました。1日目は通りすがりの方が展示を見てくださることもありましたが、すぐに去ってしまうため、なかなか説明までできませんでした。

しかし、1日目の反省を踏まえ、2日目はブースの配置を変え、参加者が自然と紹介展示ブースの方にも足を運ぶようにしました。その結果、2日目は本当にたくさんの地域の方にパネルを見てもらえ、そして企画者である3名が分担してそれぞれの参加者に説明できました。本当に興味を持ってくださる方からはたくさん質問して頂き、大変嬉しく思いました。参加者の中には「山口県立大学のオープンキャンパスよりわかりやすく、このイベントにきてよかった」という声もいただき、この声を頂いた瞬間が一番この活動をやってよかったと思える時でした。



伝統体験ブースはチマチョゴリの試着体験を行いました。1日目はチマチョゴリ試着する人が少なかったので、2日目は一番目立つところにチマチョゴリを配置するように改善しました。また、主に子供連れの家族に声をかけ、小さい子供をターゲットに呼び込みを行ったところ、本当にたくさんのキッズたちがチマチョゴリを着てくれました。その保護者の方も一緒に試着して、親子で写真を撮るという姿を何度も目にすることができました。参加者から「本格的な伝統衣装を着ることがないので、本当にいい思い出になった」という声を聞き、大変うれしく思いました。日本の着物や浴衣より着やすい構造になっているため、とても人気が高かったです。



最も人気の高かった食文化体験ブースはオクスス茶（トウモロコシ茶）、韓国風かき氷、ホットク（ホットケーキのようなおやつ）の試食です。1日目は残暑の残るむしむしとした暑さでかき氷が一番人気でしたが、2日目は雨で気温が下がったため、オクスス茶が一番人気でした。韓国風かき氷はかき氷機で氷をすり、その上にきなこ・あんこ・おもち・練乳をかけるシンプルな昔ながらのスタイルのものを作りました。大変好評でした。ホットク（ホットケーキのようなおやつ）も本場の味を本場さながら（紙コップでくるむ）に食べて頂き、韓国に何度か行ったことのある参加者も非常に喜んでくださいました。オクスス茶は主にご年配の方に人気が高く、売ってほしいという声もありました。

アンケート調査は全ての方にアンケート回答してもらうことはできませんでしたが、1日目約40名、2日目約50名の方に協力していただきました。（分析は別途報告いたします）最初なかなか人を呼びこむということが出来ず、地域の方からしてみれば一体ここで何をやっているのかわからないという声もありました。しかし、2日間活動を行うことによって、反省点をすぐに改めることができたこと、そして何よりも、主催者自身がどうすればもっと良くなるか考え、行動できたことが今回の活動で得たことの一つであると思います。

快く場所を提供してくださった井筒屋 磯部様、アドバイスを頂きました山口市タウンマネージャー 有田様、当日もお手伝いしていただきました樫部様、山口大学 金先生に心よりお礼申し上げます。

第2回目は10月1日（土）、2日（日）に第2回「YPU ジャント in 山口」を大殿大路で開催されたアートフル山口にて実施しました。今回は、山口市と姉妹都市提携を結び、また山口県立大学とも長年にわたり交流のある昌原市・慶南大学校の教授2名、大学院生1名、学部生3名が来日し、一緒にブース

を運営したことです。チョン・ウンニ教授は「産学連携した地域社会づくり」に取り組んでいらっしゃる、山口県立大学の海外フィールドワークの一つとして実施している「韓国の地域社会づくりを学ぶ」プログラムで3年間サポートして下さっています。私たち企画者の3名は2年生のときに参加し、留学中は実際に現地で通訳などお手伝いをしました。今回の企画の目的に賛同してくださり、この活動のために来日して下さいました。

山口県立大学からは韓国語を学び、慶南大学校への留学控えている学生をはじめ、慶南大学校交換留学生2名、そして今回の活動の指導教員を含む、総勢21名での活動となりました。



今回も第1回目と同様、紹介展示ブース・伝統体験ブース・食文化体験ブースの3つのブースを設け、来場者にアンケート調査を行いました。1日目は約120名、2日目は約150名、計270名が来場して下さいました。



食文化体験ブースでは、準備していた120食のホットク（ホットケーキのようなおやつ）と100食の韓国風かき氷が開始4時間でなくなるほど大好評でした。食べながら昌原市の紹介をするという第1回目と同様のスタイルで行い、8月に一度経験しているため、集客もかなりスムーズで興味を持っていただけるような呼びかけもできました。残暑残る暑い日だったので韓国風かき氷も好評でした。ご高齢の方にはやはりオクスス茶は人気で、冷たい水で作ったオクスス茶も暑いこの日にはかなり評判がよかったです。

伝統体験ブースではチマチョゴリの試着体験をしたり、韓国の大学生が持って来てくれた伝統遊びを紹介したりしました。非常に好評で、アンケート調査でも伝統体験ブースが印象に残っていると答えてくださった方が非常に多く、「チマチョゴリを着ることができてとても良い体験だった」「はじめてだったが大変良い体験になった」といったコメントがありました。



家族連れでお越しになる方が多かったため、親子や家族でチマチョゴリを着て写真を撮る写真コーナーのようなスタイルを設けました。思い出として残せるととても評判がよかったです。子どもも初めて着る伝統衣装に興味を示し、かわいいのでもう1回着て写真を撮りたいという子もいました。たくさんの方が写真を近くの写真スポットで撮り、思い出を残していく姿を見る時はこの活動を主催してよかったと思える瞬間でもありまし

た。

今回実際に韓国から来日した慶南大学の先生方と学生、山口県立大学の交換留学生に運営に関わってもらえたことで、来場者たちの韓国についての興味・関心を高めることができた実感しています。昌原市についての紹介を熱心に聞いてくださる方もたくさんいらっしゃいました。実際に韓国に何度も足を運び、韓国好きな人も多くいらっしゃり、韓国語で会話して楽しんでいらっしゃる姿目にしました。



アートフル山口実行委員会の皆様、チョンウンヒ教授をはじめとする関係者各位、心よりお礼を申し上げます。

上記で述べましたが、「YPU ジャント in 山口」の開催の目的は、山口県立大学生と交流する場として、山口市と韓国昌原市が姉妹都市であることをより多くの方に知ってもらうこと、そして、山口県立大学がどのような学びをしているかを地域の方々に知ってもらうこと、でした。2回の活動を通して、私たちの企画の目的である昌原市のこと、私たちの経験や学びを伝えることができ、地域の方にもこの活動の意味をしっかりと理解して頂けたので、企画の目的を達成することができた実感しています。このイベントのためにホームページで検索し、山口県立大学まで足を運ばれ、どこで活動をやっているのか探されたという地域の方もいらっしゃいました。

今回、私たちが企画したことが今年限りで終わらず、今後も継続して、山口県立大学の学生が主体となって山口県立大学での学びを地域の方に発信するような、山口地域を盛り上げていけるような企画が続いてほしいと願っています。大学生生活最後に大変貴重な経験をすることができました。